

# 3学期始業式

校長の話 R5/1/10

令和5(GO!)年がスタート

---

スライド8枚

新しい年になりました。新年おめでとうございます。今年もよろしく  
願います。令和5年 **GO!の年** がますますの飛躍の年になること  
を祈念します。

年が改まると気持ちも自ずと引き締まり、新しい自分への期待感も  
膨らんでいきます。2学期終業式で、「しっかりと新年の**抱負**を立てま  
しょう」と言って、話を閉じました。自分が目指す令和GO年の姿をイ  
メージできたでしょうか。

昨年も話しましたが、「抱負の**負**」は「背負う」とか「請け負う」で使わ  
れる「負う」という意味であり、「負ける」という意味ではありません。  
抱負という言葉は、心の中の決意・計画をしっかりと抱き、引き受け  
るということを意味しています。

「抱負を立てる」とは、心にある決意の計画を立てるということです  
から、「こうなりたい、こうしたい」で終わるのではなく、抱負を述べ  
る際には「こうなれるように(又は)こうするために、このようにして  
いきたい」と、ジブン・チャレンジ期間での**アクションプラン**と同じよ  
うに、具体的に見通しをもつことを指します。

この3学期は「行く1月、逃げる2月、去る3月」と言われるように、あっという間に卒業式を迎えます。

巣立ちの3年生は、いよいよ**進路の決定**です。高校進学はゴールではなく新たなスタートですから、どこへ行くかではなく、そこで何をするかを重視しましょう。何より自分の人生です。正しい情報とアドバイスを判断材料にして、自らの選択により決断してください。

最上級生となる2年生は、**生徒会をリード**し、西中の校風をさらにより良く引き上げる立場になります。リーダーシップを発揮する人もいれば、このリーダーをサポートする人もいます。様々な役割とか立ち位置の人がいるからこそ、集団は成り立っています。

先輩となる1年生は、新入生と最上級生を**支える立場**となり、大人に近づくための自覚が求められます。14歳になると刑事上の責任を負い、罪を問われ、法の裁きを受ける年齢になります。18歳になればもう成人ですから、社会人となるべく準備をしましょう。

国内一部地域の中学校では「**立志式**」という行事があるそうです。これは数え年の15歳を祝う行事のことで、奈良時代以降の「元服」にも関連しているようです。数え年なので中学2年生の14歳の時期に当り、卒業式や入学式同様、人生の節目を祝います。

「立志」の言葉の意味を調べると、「志を立てること。生きる上での目標を立て、それを成し遂げようとする」と記されています。繰り返しになりますが、「**将来の決意や目標などを明らかにすることで、大人への自覚を深める**」ということになると思います。

もしも皆さんが、現代ではなく歴史で習う元服があった時代に生きていたら、中学生は既に大人として扱われる年齢に達します。もしも争いのある時代に生まれていたとすれば、今とは全く異なる生活環境に遭遇します。

想像してみましよう。戦国時代に生きていれば戦の準備をしていたかもしれませぬ。昭和初期に生きていれば戦禍に巻き込まれていたかもしれませぬ。もしも平和な日本ではなく、ウクライナで生活していたら、この瞬間にも砲弾の恐怖に苛まれていることでしょう。

話を戻します。3年生はすでに、4月からの高校生活を想像し、受検モードに入っているのではないのでしょうか。1・2年生も来年・再来年の今頃は今の3年と同じ立場になり、自分の進路選択は自分で決めることになります。

選択としては、就職をするのか**進学**にするのか。家から通うのか寮生活とか一人暮らしをするのかを考えます。多くの人が選択する進学の場合には、**全日制**の普通科か専門学科、若しくは総合学科、あるいは高等専門学校にするか。それとも**単位制**にするのか**定時制**にするか、または**通信制**するか等々、様々な選択肢があります。

ほとんどの人が初めての進路選択で、受検の関門に臨みます。中には、不安や心配からくる**ネガティブ思考**に陥る人がいるかもしれませんが、世の中の中学校を卒業したほとんどの人々は、この壁を通り過ぎていきますので、心配し過ぎないことを勧めます。そして、経験者からの助言を受けて、未来を想像し、**ポジティブ思考**で乗り切ってほしいと願います。

ところで、先月は冬場にスイミングクラブでの水泳学習や、個別懇談会期間中にノーチャイム日課を試行しました。この経緯や目的などは日報はじめ、南信州新聞や学校ホームページ等でも知らせましたので、ここでは割愛しますが、皆さんはどう感じましたか？

同じ事柄に出合っても、受けとめる側には様々な感情がありますから、**ポジティブに受け止める人もいれば、ネガティブにとらえる人も**います。例えば、水泳が苦手な人だったら、なぜこの寒い時期にわざわざ出かけて泳がなければならないのだと思ったかもしれません。心配性の人だったら、ずっと時計を見ていて色々が手に付かなかったかもしれません。

逆にプラス思考の人であれば、温水プールでインストラクターに教えてもらえてラッキーだと思ったり、この機会をチャンスととらえて、時計を見て自分から意識して動いてみようと思ったりしたかもしれません。

話をまとめます。11月の人権教育月間中の校長講話で、「見方・考え方のチェンジ」として、「逆転の発想：明るくプラス思考」とか「リフレーミング／ネガポ辞典」のことを話し、グループになって講話の「リフレクション」をしてもらいました。

思い出してもらおうと、**リフレーミング**とは「ある出来事や物事を、今の見方とは違った見方をする事で、それらの意味を変化させて、気分や感情を変えること」であり、自分が短所だと思っていることも「**見方・考え方をチェンジする逆転の発想**」によっては長所になり得るという内容でした。

---

12月2日付け青木先生発行の3学年通信に、進路実現に掛けて「吐く」という漢字にどのようなイメージがあるか？という問いがありました。中体連壮行会の際に私も「**プラスを口にすれば、それは叶う！**」と話しましたが、これと通じる思いが発信されていました。

口偏に土で「吐く」ですが、土をプラス+とマイナス-に見立ててみます。マイナスの言葉が無くなり、プラスの言葉が残れば「叶う」になる。夢を叶えたいのならプラスの言葉を出し続けることが大切。そして時には、マイナスの言葉を出すことも悪くはないが、少しずつ減らしていき、プラスの言葉へと変換してみないかという内容でした。

人それぞれの人生ですが、同じ時間を過ごすのであれば、不平不満をぶついたり人のせいにしたたりするネガティブな生き方よりは、人に感謝し明るく前向きになるポジティブな生き方の方が、楽しい人生になると思います。併せて、苦しいことは溜めてしまわずに吐き出すことも重要なことですし、マイナス感情が薄まったり変換できたりすることも肝要です。

新年度の0学期とも言われるこの3カ月は、まとめと準備の大切な時間を過ごします。明るく前向きになれる思考で、節度をもって楽しく生活していきましょう。